



奉仕教会の Bangkok Grace Church にて主日の礼拝後に

この夏の一時帰国の目的

- 休息をとり、肉体的、精神的な疲れをいやす
- 子どもたちの予防接種など必要な医療面のケアを受ける
- フロンティア 2019 や諸教会にて宣教報告を行う

この夏の主な計画

- 日本滞在
7月2日～8月16日
(滞在先: 招待キリスト教会、いきいきクリニック)
- 北陸飛騨宣教区、松原湖バイブルキャンプ、フロンティア 2019、および招待キリスト教会、山形恵みキリスト教会などいくつかの教会で宣教報告を予定
- 長男の愛友が日本の小学校に体験入学を予定

「主の小道はみな恵みと、まことである。…」

詩篇 25:10

主の恵みととりなしの祈りによって

สวัสดีครับ! サワディークラブ!

タイ宣教のためにお祈りとご支援をありがとうございます。2016年9月にタイ王国に派遣された私たちは、皆様のとりなしの祈りに支えられ、無事に三年目の歩みを続けることがゆるされています。言葉の壁、文化の違い、新しい環境への適応など多くの困難や厳しさがありますが、みことば(創世記 12:1-3)をもって私たちをこの地に遣わしてくださった主は、常に私たちと共にいてくださり、力強い御手をもって導いてくださっています。

振り返れば、主と共に歩んだこれまでのタイでの生活は、「主の小道はみな恵みと、まことである。…」(詩篇 25:10)とのみことばどおり、恵みに溢れ、主の真実さを体験する

歩みでありました。今回与えられた日本への一時帰国の機会を用いて、皆様とタイ宣教における恵みを分かち合わせていただき、共に主を賛美し、宣教の主のすばらしい御名をほめたたえたいと願っています。

また、三人の子どもたちも元気にすくすくと成長しています。子どもたち自身も、今回の日本への帰国と皆様との再会をととも楽しみに祈ってきました。特に、二年前にバンコクで生まれた長女の愛恵(あい)にとっては、今回が初めて日本を体験する機会になります。7歳になった長男は、日本の小学校に体験入学する予定です。皆様との神の家族の交わりの機会が与えられていることを感謝しつつ、子どもたちを通して与えられている恵みも分かち合わせていただきたいと思います。

私たちの祈りに応え、必要を満たしてくださる主

私たち家族は、タイの首都バンコクの中心地から車で50分ほど行った郊外にあるラムカムヘンという町に住み、そこにある Bangkok Grace Church にて奉仕をさせていただいて

います。この教会には、クリスチャンのためのインターナショナルスクールとタイ語の語学学校も併設されており、平日は子どもたち三人はそれぞれ



学校の制服を着る子どもたち

小学部と幼稚部へ通い、私たち夫婦は同じ敷地内にある語学学校でタイ語を学び、午後はそのま教会で奉仕をするという生活を送っています。

派遣前はタイについての知識も無く、右も左も分からなかった私たちにとって、礼拝を捧げる教会と子どもたちと私たち夫婦が学ぶ学校が一つの場所にあるこの環境に導かれたことは、大変大きな恵みでした。当初は高額な学費の問題があり、子どもたちを通わせることはとても難しい状況でしたが、日本の諸教会の皆様のお祈りとご支援により、道が少しずつ開かれていきました。私たちの必要をすべてご存知で、最善をもって私たちの祈りに応えてくださる主を賛美しつつ、皆様のとりなしのお祈りに心から感謝いたします。



奉仕教会の Bangkok Grace Church



アウトリーチに出かける子どもたち

■ 家族構成

河野晃 (Akira Kono)

美千代 (Michiko)

愛友 (Manato, 7歳)

愛絆 (Aki, 5歳)

愛恵 (Ai, 2歳)

■ Contact Us:

address:

Bangkok Grace International School
79/3-12 Ladphrao Soi 112,
Wangthonglang, Bangkok 10310,
Thailand
email: akirawwd@yahoo.co.jp
mobile(Thailand): 095-284-1355
Facebook: Akira Kono

■ 献金の御礼とお願い

皆様の尊いご支援、献金を心より感謝いたします。タイでの働き、宣教の前進のために、引き続きご支援をよろしく願っています。

宣教献金振込先: 郵便振替

00120-5-142886

口座名義: 日本同盟基督教団

指定: コウノアキラ

奉仕の恵み

タイ語がまだまだ不十分な私たちですが、教会において奉仕の機会が与えられていることも大きな恵みとなっています。毎週土曜のアウトリーチでは、家族で近隣の家庭を訪問し、紙芝居を用いながら福音を子どもたちに伝えています。日曜は、妻の美千代姉は教会学校の幼稚科を、私は中高生礼拝を担当しています。アウトリーチにおいても礼拝においても、タイ語でのメッセージは、備えることも、語ることも大変大きなチャレンジですが、救い主イエス・キリストを子どもたちに伝えたい一心で、祈りつつ取り組んでいます。タイ語は発音が難しく頻繁に間違えてしまいますが、子どもたちは遠慮なく(愛をもって?)直してくれます。金曜の夜には、タイの中高生たちを我が家に招いて家庭集会を行っています。食事をし、過ぎた一週間の恵みと祈りの課題を分かち合い、互いのために祈る時をもっています。彼らがイエスさまを信じて救われ、真理のみことばによって成長していくことを心から願っています。

今回の一時帰国について

弱さばかりの私たちがここまで歩むことができたのは、ただただ主の憐れみと恵みによることであり、そして背後にある諸教会の皆様との祈りとご支援によるものです。改めて皆様に心からの感謝を申し上げます。本来ならば、第一期4年が終わる2020年8月以降に一時帰国となるのですが、それを約一年早めることになりました。昨年10月末に、国外宣教委員会の飯田仰総主事と、晶子主事ご夫妻が私たちのところを訪ねてくださり、平日朝8時から正午までのタイ語の授業や金曜夜の我が家でのタイの中高生たちを招いての家庭集会、土曜のアウトリーチ、主日のタイの中高生礼拝での奉仕と、ほぼ全ての私たちの日常生活と奉仕を共に過ごしてくださいました。そして、飯田先生ご夫妻から休暇をとるべきとのアドバイスをいただきました。このままでは長くて4、5年の働きで終わってしまう可能性があるとのことでした。私たち夫婦は、召してくださった主に従い、この地に来ました。しかし、その歩みを進める中で、いつの間にか私たちを召してくださった主よりも、自分たちの思いや行いを



アウトリーチでメッセージを語る美千代姉



中高生たちとの家庭集会

訪問した家族と

先に立たせてしまっていたのではないかと。そう問われていることが示され、祈りへと導かれました。そして、今後の歩みのために、この夏に休息をとりつつ、主の御前に静まる機会をいただくことにしました。実際に、二年前にこちらで長女を出産した妻は、肉体的にも精神的にも休息が必要な状態でした。異国の地に住む見えない緊張やストレスによる疲労。平日は語学学校でのタイ語の学び、土日は奉仕。そして、三人の小さな子どもたちの子育て。約二年間半、夫婦ともにほぼ休みをとることができていませんでした。主は今の状況にブレーキをかけてくださったのだと信じています。宣教は主ご自身がなさることであり、私たちはその主に用いられる器です。「主はこう仰せられる。『剣を免れて生き残った民は荒野で恵みを得た。イスラエルよ。出て行って休みを得よ。』」(エレミヤ 31:2) 昨年10月末に夫婦で祈る中で与えられたこのみことばに従い、今回の一時帰国が主の御前に静まり、肉体的にも霊的にも回復する機会となりますように。そして、私たちの前を進み、導いてくださる主をもう一度見上げる機会となりますようお祈りいただければ幸いです。

■ 祈りの課題

タイ宣教のために覚えてお祈りいただけましたら幸いです。

1. タイの魂の救いのために。
2. 今後のタイでの具体的な宣教の働きのために、主のビジョンを求めてよく祈り、続けて家族で一致して歩めますように。(タイ人牧師、およびタイ人教会との関係作りのために)
3. 今回の一時帰国中、夫婦の肉体的、精神的な疲れが癒されますように。子どもたちの予防接種など必要な医療面のケアもしっかり受けることができますように。
4. 一時帰国中の諸教会訪問や松原湖バイブルキャンプ、フロンティア 2019 での宣教報告が守られ、国外宣教に対する祈りがさらに燃やされる機会となりますように。
5. 夫婦のタイ語(特にリスニング)の向上のために、計画的、継続的に学びを積み上げていくことができますように。
6. 子どもたちのタイでの学ぶ環境が最善に導かれ、必要も満たされますように。